

杉本 貴代榮教授の紹介

杉本貴代榮教授は2015年3月31日をもって、金城学院大学人間科学部コミュニティ福祉学科を定年によりご退職されました。

先生は1997年に、現代文化学部福祉社会学科に教授として着任なさいました。この年は現代文化学部が設立された初年次で、先生は「社会福祉概論」や「ジェンダー論」等を担当され、新設の福祉社会学科の教育が軌道に乗るよう、ご尽力されました。当時の福祉社会学科では、女性の専任教員が杉本先生おひとりだったため、居心地の悪さがあったのではないかと推察します。



先生は、現代文化学部では学生生活委員長を務められ、福祉社会学科では教務委員などの要職を歴任され、大学院文学研究科でも社会学専攻の主任を務められるなど、校務でも役割を果たされました。

先生の職名は、2011年度からは学科の名称変更により現代文化学部コミュニティ福祉学科教授となり、2012年からは改組により人間科学部コミュニティ福祉学科教授となりました。2014年度には研究室の移動もあるなど、この数年は毎年何かが変わっており、慌ただしい思いをさせたことを、申し訳なく思っています。

社会福祉学界で先生の存在を知らしめたのは、1993年に勁草書房から出版された『社会福祉とフェミニズム』でした。東洋大学大学院社会学研究科社会福祉学専攻博士課程で学び、イリノイ大学シカゴ校マルチカルチュラル女性学研究所の研究員として研鑽を積み、長野県短期大学教養学科の助教授に着任された先生にとって、この本は当時の代表作と言えるでしょう。そして杉本先生は、2002年4月に東洋大学大学院に学位請求論文「アメリカ貧困母子家族政策の転換とその背景：ジェンダー視点による分析」を提出して「社会福祉学」の博士号を授与され、博士論文をもとに『アメリカ社会福祉の女性史』を2003年に勁草書房から出版されました（出版にあたっては、金城学院大学より出版助成を受けられました）。

先生のご著作については「研究業績」をご参照いただきたいのですが、先生は非常に多くの本を世に送り出されました。かつて社会福祉研究では女性にかかわる研究というと、「母子寮（現・母子生活支援施設）」や売春防止法に基づく「婦人相談所」あるいは「婦人保護施設」など、非常に限定的なイメージを与えるものが多かったのですが、杉本先生のご活躍により、日本の社会福祉学界にもジェンダーの視点が導入され、女性と社会福祉の関係を研究する視点が広がりました（とはいえ、杉本先生からは「まだまだ不十分です」とお叱りを受けそうですが…）。

先生は、日本社会福祉学会では中部ブロックの担当理事を2007年度から2010年まで務められ、金城学院大学の名前を学会に知らしめました。

杉本貴代榮先生のご退職にあたり、論集委員会と執筆者一同は、先生のご健康とますますのご活躍を祈願して、ここに論集記念号を献呈いたします。